

マテリアリティ(重要課題)の特定

メックグループは、「独創の技術で新たな価値を創造し、お客様とともに持続可能な社会の実現に挑戦する」という2030年ビジョンのもと、事業活動を通して界面価値創造を実現することで豊かで潤いのある社会と環境づくりに貢献するために、経営として取り組むべき6つのマテリアリティ(重要課題)を特定しました。これらのマテリアリティは、「2022-2024中期経営計画」策定にあたり選定したものです。

マテリアリティ特定プロセス

重点課題の抽出	GRIスタンダードやSDGsなどの国際的なフレームワークやガイドラインを参照しながら社会課題を洗い出し、経営ビジョンや事業のバリューチェーンを踏まえ、当社グループと関連性の高い課題を抽出。
重要度の分類・評価	リストアップした課題の中から、当社事業に関連性の高い分野を抽出したうえで、事業軸と社会軸でマッピング。
自社での検討	メックの企業理念、「2030年ビジョン(2022-2024中期経営計画)」との連動を踏まえて検討。
ESG委員会での意見交換	マテリアリティ素案について、社内外の有識者としてESG委員会のメンバーと意見交換。
マテリアリティの特定 取締役会で承認	特定したマテリアリティ、各要素について、取締役会で妥当性を認識し、決議。

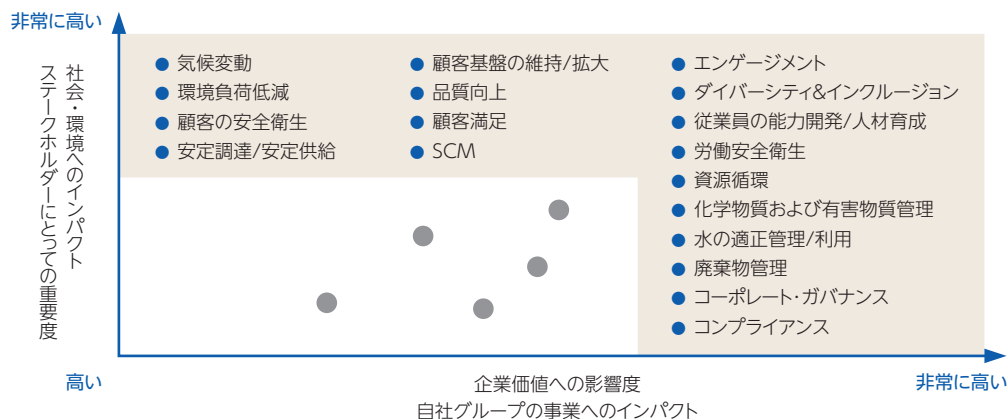
抽出されたマテリアリティを6つの事業分野に分類

マテリアリティ	1 ● 高付加価値製品の開発、提供 ● お客様の生産効率向上、歩留まり向上への寄与 ● 環境負荷低減製品の開発 ● 新技術・新事業創出	2 ● サプライチェーンマネジメント ● CSR調達 ● グローバル生産 ● グローバル供給 ● BCP	3 ● 気候変動対応 ● 人と自然の共生 ● 適正な化学物質管理 ● BCP
	事業分野 未来を切り拓く研究開発	事業分野 適正な調達、生産、物流	事業分野 環境保全
マテリアリティ	4 ● 労働安全衛生(人) ● 品質保証(製品) ● ステークホルダーとの長期的信頼関係の構築	5 ● 健康経営 ● ワークライフバランス ● キャリア形成 ● ダイバーシティ ● エンゲージメント	6 ● コーポレート・ガバナンスの強化 ● 適正な情報開示 ● 情報セキュリティ ● リスクマネジメント ● コンプライアンス
	事業分野 品質と安全	事業分野 多様な人財の活用	事業分野 経営基盤の強化

重要度の高い取り組み評価

社会と自社事業の2軸から最も重要なテーマを特定し、影響度の評価をマッピングしました。

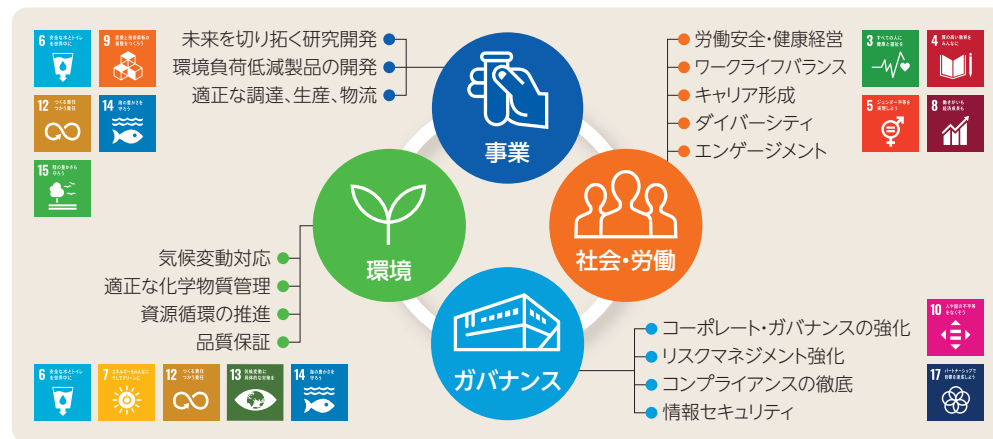
■ マテリアリティ特定のための評価



SDGsとマテリアリティの関連性

マテリアリティをSDGsとの関連性で分類し、各マテリアリティに紐づく13のSDGs目標を設定しました。

■ 事業を通じたSDGsへの取り組み



マテリアリティとKPI、および関連するSDGsアクション

6つのマテリアリティ	マテリアリティ充足のための取り組み	2022年度のKPI (達成指標)	達成度	実施事項・施策【2022年度のKPI達成状況】	2030年の目標	関連するSDGsアクション
未来を切り拓く研究開発	環境負荷低減製品の開発	主力製品の歩留まり向上と環境負荷低減に取り組む	○	お客様先での生産効率、歩留まりを向上させる製品の開発を継続。お客様先の先端技術に対応する機能もち、廃液低減に寄与する製品の上市と提案を行った。	●化学密着に関する技術の確立 ●廃液・排水処理の負荷低減	 
	新規事業の開拓	事業のタネの抽出	○	化学とAIを融合させ、新たな価値を生むべく開発を継続。	柱となる新規事業を立ち上げる	
適正な調達、生産、物流	SCM (サプライチェーンマネジメント)	原料メーカーとの信頼関係向上 対話目標: 10件	○	計画通り10社と対話を行い、CSR調達他に関する申し入れを行うとともに、原料メーカー側の要望を確認し、対応した。	原料調達体制最適化/リスクヘッジ	 
	CSR調達	主要原材料調達先の複数化を進める	○	主要原材料調達先の複数化を計画通り推進中。		 
	グローバル生産・供給体制の構築	グローバルミーティングの実施と情報共有	○	グローバル生産戦略を構築するため、月1回生産本部、子会社製造責任者・担当者で会議を行い、情報の共有化を図り、問題点の改善や対策を協議し、取り組みを行った。	グローバル生産体制の構築/連結BCP体制確立	
	BCP(事業継続計画)対応	国内工場のBCPの再構築 (2025年目標)	○	新工場の建設を見越した、新BCPを構築すべく、プロジェクトを立ち上げ活動を行っている。【2025年までの3カ年計画】		
環境保全	適正な化学物質管理	含有禁止物質の不使用	○	含有禁止物質を使用しない仕組みの維持、環境法規制への対応などさまざまな化学物質の取扱いについて、法に従った適切な管理を行っています。	化学物質の管理徹底により取扱う方々の健康への影響を限りなくゼロにする	 
		教育の実施と情報の共有化	○	化学薬品メーカーとして、薬品を取扱わない社員も含め、化学物質管理に関する教育を3回実施。また、化学物質を使用・管理する社員に対し、適正な社内教育と危険有害性情報の共有を行っています。		
	気候変動問題への対応	TCFD提言に沿ったシナリオ等の検証と策定	○	2023年2月にTCFD提言への賛同表明とシナリオ等の開示を行った。	社会の持続的な成長のため、地球環境問題に真摯に取り組む	
再生可能エネルギーへの移行検討		○	社内のエネルギー使用量・状況を確認し、再生可能エネルギーへの移行を検討した。➡2023年度より順次導入を進める。	エネルギー使用の削減とネットゼロに向けての取り組みを実施		
品質と安全	安全衛生管理	休業災害件数: 0件	○	休業災害件数0件を維持。(不休業災害は4件発生。再発防止策を徹底した)	安全で安心な労働環境を提供する (休業災害0件を維持)	 
	品質保証	品質保証体制の再構築	○	製品品質のさらなる向上のため、品質保証体制の再構築に取り組み、計画通り対応を完了した。	お客様が満足する「モノ・コト」をグローバルで提供し続ける	
	適切な情報開示による企業価値の向上	情報開示の適宜実施	○	●適時開示を求められる情報の遅滞無い開示を実施。 ●ホームページやサステナビリティ報告書により、ESG他に関する社会的に求められる情報の積極的な開示。	さらなる企業価値向上への貢献を推進	 

マテリアリティとKPI、および関連するSDGsアクション

6つのマテリアリティ	マテリアリティ充足のための取り組み	2022年度のKPI (達成指標)	達成度	実施事項・施策【2022年度のKPI達成状況】	2030年の目標	関連するSDGsアクション
多様な人財の活用	健康経営	健康診断の受診率維持	○	各種健康診断・ストレスチェックの受診率約100%を維持。 (全社員の心身の健康状態の把握や異常の早期発見に注力)	健康経営の推進、各種休暇制度の運用により、高い従業員満足度を維持する	   
	ワークライフバランス (WLB)	男性従業員の育児休業取得向上	○	2021年度: 2名 → 2022年度: 6名取得 (平均取得日数は32日)		
		職場環境の改善を5件実施	○	職場環境および福利厚生面における「仕事の効率化」「多様な働き方」に対応した改善を7件実施。 職場環境の改善を今後も継続的に行っていく。	多様な働き方に対応した職場環境の整備	
	キャリア形成	受講必須研修の原則全員受講	○	対象となる研修の受講率: 約100% 社員一人ひとりがその能力を最大限発揮できるよう、「階層別研修」「業務スキル向上セミナー」「キャリア形成サポート」などのプログラムで、教育を多様化・充実化。	社会やメックが求める人財の育成と、公正で満足度の高い職場環境の実現を目指す	
	ダイバーシティ	課長級以上の役職に女性を2名以上増やす (2024年3月時点の目標)	○	2023年4月現在 2名増を達成。		
	エンゲージメント	会社との信頼関係の維持 (スコア3.0以上)	○	2021年度: 3.7/5.0点 → 2022年度: 3.8/5.0点 従業員意識調査を実施。昨年よりスコアが向上した。		
経営基盤の強化	ガバナンス	取締役会の出席率 85%以上 (社外取締役)	○	社外取締役の出席率: 100%	ガバナンスの強化により、社会から信頼される企業運営を行う	
	情報セキュリティ	重大セキュリティ事故発生件数: 0件	○	重大セキュリティ事故発生件数: 0件 保有する情報資産を適切に管理・利用するため、厳守すべき基本事項を定め、その適切な運用によって均質な情報セキュリティ管理を実現できるよう、取り組んでいる。	機密情報漏洩に伴う損失の回避	
		自己点検の全員実施および合格率100% ITリテラシー教育の実施回数: 8回 従業員が理解しておくべきITの仕組みや、情報セキュリティ他に関するWeb教育を計画通り実施。	○	自己点検の全員実施および合格率100% ITリテラシー教育の実施回数: 8回 従業員が理解しておくべきITの仕組みや、情報セキュリティ他に関するWeb教育を計画通り実施。		
リスクマネジメント	経営リスクの可視化と対策の実行	○	経営リスクの適宜見直しと対策の実行。 (当社グループの持続的成長を阻害する、さまざまなリスクやその対策の可視化を行い、リスクマネジメント委員会で審議)	メックグループが持続的に成長するため、リスクと機会の把握を徹底する		